

(1) 環境問題の展開と環境研究の方向
— 社会システムの側面から —

国立公害研究所 内藤正明

はじめに

環境問題は言うまでもなく「人間」とそれを取りまく「環境」との関わりから生じるものであるが、これまでは“環境”の動態を解明することに研究の中心があった。一方の“人間”の側については、特に生体影響的な側面が対象であって、いずれにしても自然科学的アプローチが研究の主役となってきた。しかし事態は急激に変わりつつある。特に我が国は今、大きな社会・経済変革の時期を迎えており、結果として環境問題もその様相が大きく変わろうとしている。そして、その変化の方向が求めているところがまさに社会システムのアプローチであろうと思われる。このことを以下にいくつかの具体的な事例をもとに概説してみよう。

1. 環境研究の変遷

環境に関連する研究分野が時代と共にどのように変遷したかを振り返ってみると、環境問題が、頻発し始めた昭和30年代は、因果のメカニズムを解明し、被害の程度を同定することが先ず求められた。この時点では当然、基礎科学的な「現象解明研究」が何よりも重要であった。次いで適切な防除対策の必要性から、「工学技術的」な仕事に主役が移っていった。そして今日残された問題が持つ困難性は、現象の機構が不明であるとか、対策技術が存在しないといったことよりも、むしろ社会がどう認識し、どのような対応を受容するのかという点にある。その事態を示したのが図-1である。

上述のようなわが国における環境問題の推移に加えて、特に今、世界的な規模で進みつつある技術、経済、意識等の変革が、当然、環境問題をも大きく変容させるであろう。社会システムという側面から見た時、その変化の波の最も重要なものは“deregulation”という語で象徴されるものであろうと思われる。というのも、これは環境行政の最大の拠り所である、“基準の設定とこれに基づく規制”という施策のプロセスを基本的に変えると考えられるからである。そこでこのことが環境行政、したがって環境研究にもたらすであろう影響を、特に社会システムという側面から推定してみる。

2. 施策策定過程に関して

環境行政の重要な政策手段である。規制に代わって考える有効な手段としてはどんなものがあるだろう。

「快適環境創り」というような事業的施策には限界がある。そこで考えられるのは誘導的手段であり、これには経済的な仕組みを作るか、モラルやボランティア精神を醸成するかである。これらの仕掛けをどの様に作るかがこれからの仕事であり、これこそまさに社会システムの研究が最も要求される課題である。

3. 環境の評価過程に関して

施策決定の前提として必要なのは、環境を評価することである。この点に関しても、これまでの比較的短期の「健康影響」の視点からの評価、判定から、もっと幅広い多様な観点へと広がりつつある。たとえば多くの自治体で進行

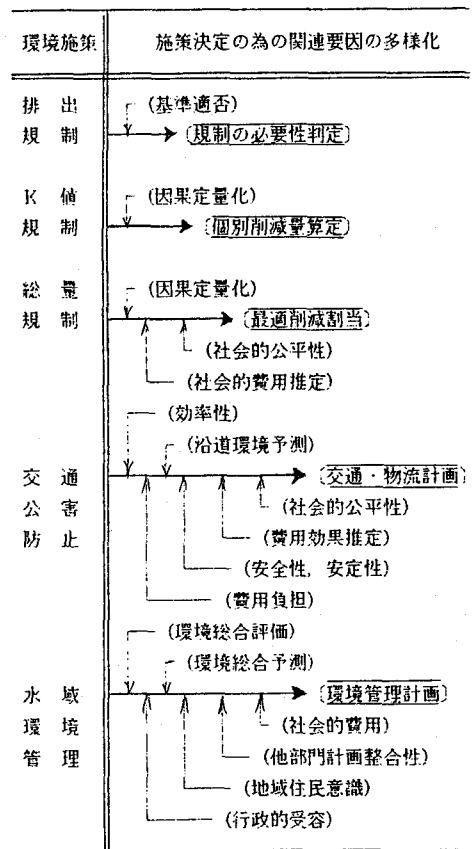


図-1. 施策決定過程が複雑化し、社会・経済的判断が要求される様子

中の「快適性」という視点から環境質をトータルに捉えようとする「快適環境評価指標」の作成作業などがその一つで、それは都市から周辺農林地さらに自然公園へと対象域を拡げつつある。また快適性以外に、長期潜在的な生体影響を「リスク」として捉える視点、貴重な環境素材の存在やその被害を「資源価値」として捉える視点、さらにはこれらを「経済性」に投影して財的価値として計量するという視点等々である。

このような検討の蓄積がいつれ、GNP に代わり「国民の経世代にわたる生活質の充足度」を表現する新たな指標（ストックを中心とする“environmental resource accounting index”のようなもの）の提案につながる事が期待される。

この様な指標作りの過程でも、住民の満足度意識を把握すること、この満足度や環境の多様な資源価値を貨幣価値に換算することなどに関して、社会システム的アプローチの要求される場面が一層増大していくであろう。

環境の評価・判定が環境基準である場合、これは絶対的条件であるので、政策の選択に自由度は少ない。しかし指標によって環境状態が相対評価されるならば、経済性や社会的受容性などという種々の価値基準とのバランスによって、より合理的な政策選択の余地が生まれる。この場合には「費用－便益分析」などが導入されることになるであろうが、このためにはこれまでの理工学研究に加えて社会・経済的分析が不可欠である（図－2）。

おわりに

かなり独断的な見方を主張した。ただしこれまでの環境研究が個別的現象分析に重点を置いてきたことに對し、目的設定を明確にした問題解決志向の仕事が必要なのは大方が容認されるのではなかろうかと考える。

「環境基準」に代わる環境行政基礎理念としての「環境指標」

